

The 21st CADP 参加者の声

■初回参加者

これまで英語で自己表現する機会がなかったので、貴重な経験ができ「参加してよかった」と心から思っています。参加する前はとても緊張しましたが、事前グループや miniCADP で提供された発表の練習やアドバイスを受ける機会があったため、実際の発表は思ったよりもスムーズに進みました。また、英語や日本語に関わらず、自己紹介の重要性やプレゼンテーションを通じた自己PRのテクニックについて学べたことも大きな収穫であり、特に自分の特徴や強みを意識し、それを効果的に伝える方法を知ることができ大変有意義な会でした。様々な国の精神科医と打ち解けることができたのが嬉しかったので、もっと英語を勉強したいと思うようになり、また将来的な国際学会での発表に向けて少しでも自信がつけました。キャリア形成において、まだ若手といえるタイミングに国際的視野をもつよいきっかけとなりました。ありがとうございました。(水井亮)

■2回目参加者

私にとって CADP は国内だけでなく海外の参加者との交流機会になっています。2回目の参加はポスター発表と座長の機会が得られ、「どうやって表現すれば良いのか」と関連書籍で英語フレーズを確認し臨みました。ポスターでは Sartorius 先生から一番のトピックを的確かつ明瞭に伝える大切さを教わりました。座長は発表者と聴衆を繋ぐ大事な役割を担えたと思います。

今回は災害精神医学に関する講演やグループ討論が企画されました。被災者の心や身体健康について共に考えるきっかけになりました。精神科病院で日々業務に取り組んでいる一方で広い視野を保ち国際交流に没頭できる3日間はとても実りの多い時間でした。

CADP では、英語力が不可欠ではありますが、語れるテーマや関心事を広げておき他の参加者と共有できるのもより一層楽しくさせます。毎日の研鑽もイベントも大事にしていきたいです。(畠田順一)